

交通安全の心得

「構えブレーキ」を普段の運転に 停止距離を最小限にして事故・重大事故防止を



昨今、交通安全を取り巻く状況は、自転車の利用者増や電動キックボードの普及、そして進む社会の高齢化等により、運転者にとってより厳しいものになっています。

運転者は、路地からの飛び出し、一時停止無視、歩道から車道への進入・横断等の危険に対応することが求められます。

そのために「危険予知」とともに大切なことは「早く止まること」です。

人間が危険を察知してからブレーキが利き始めるまでの距離を「空走距離」と言い、時間にしておよそ約1秒間です。危険を察知し体が動き始めるのに0.5秒(疲れているとちょっと遅い)、アクセルからブレーキに足を移すのに0.2秒、ブレーキを踏み利き始めるのに0.3秒と言われています。1秒という時間は、時速40^{キロ}での走行で11^{メートル}も車を進めてしまいます。

【構えブレーキとは】

生活道路や飛び出しなどの危険が予測される時に、右足をブレーキの上に置きます。そしていつでも急な飛び出し等があっても停止できるように備えます。

このことで足をアクセルからブレーキに移す時間0.2秒で約2^{メートル}、反応時間も短縮できればより早く停止することができて、事故の発生、もしくは事故の重大化を防止することにつながります。

構えブレーキを普段の運転に取り入れ、危険に近づかない運転にいきましょう。